

ライフ
ストーリー

文音

"A" is for…? —アクティビストとして—

LGBTQIA の「A」ってなんでしょう、アライがあてはまることもありますね。わたしは自分を表すときにアライということばを使うのがそんなに好きではありません。アライのライフストーリー集に寄稿しておいてなにを言っているんだこいつは！？と思うでしょう。いや、他人から見たらアライだと思われるような行動はしていますし、LGBTQIA アライを増やしたい、増やさなければならないと思っています。でもわたしは同じ「A」でも「アクティビスト」です。

自己紹介が遅れました。私は関西学院大学社会学部を 2026 年 3 月に卒業した文音（あやね）と申します。ノンバイナリー、アロマンティック・アセクシュアルです。興味関心は、セクシュアリティ論やクィア・スタディーズ、卒業論文はアロマンティック・アセクシュアル当事者の規範への抵抗について執筆しました。在学中、3 回生からレインボーウィーク実行委員会に関わり、2025 年度「アライになるためのワークショップ」、2026 年度「クィア神学企画（執筆時点では仮題）」を担当しています。音楽と旅行が好きです。ひとよりも生きるためのエネルギーの山と谷が大きくなる病気と付き合っています。

レインボーウィークには参加者として毎年参加していましたが、実行委員会に入ったこと、「アライになるためのワークショップ」を担当したことの動機は、焦燥感からでした。性的少数者に対して「隣に住んでいたら嫌だ」や同性カップルに対して「生産性がない」という政治家、SNS 上で激しさを増すトランス差別、こういったバックラッシュの中で当事者として受動的ではなく能動的に何かをしなくてはいけないのではないかと、いう焦りがあったのです。want というよりは must do something です。アライとしてのアイデンティティよりも、私を突き動かしたのはマイノリティ性でした。今もそうです。アライというと支援する、理解する、といった寄り添いのイメージがありますが、私は私を含めマイノリティの人間をこういった活動の中で「ここに居るよ！」と可視化させたいという願望から動いているようなところがあります。（割と自分の生き様を世の中

にアーカイブしたいというイタめの欲望を持っていることもあります。) アライが当事者の「横」に居るイメージなら、私のやっていることは「縦」の方向です。周りの壁をなぎ倒し、まだまだ低い当事者の地位を上げ、公共や社会の中での施策としての優先順位をブチ上げる、そんな感じなのでアライという言葉よりも「運動」や「アクティビスト」という立場・言葉を好んで使います。

「アライになるためのワークショップ」は学生・職員・行政職の方などたくさんの方に参加していただき一応成功に終わったとは思っていますが、実際に開催してみて感じた課題もありました。それは、「アライ」という言葉すら知らない人、ジェンダー・セクシュアリティに関わる 이슈 に関心が無い人にもどう興味を持ってもらう、参加してもらうかということでした。とにかくアライを増やす、せめて LGBTQ ヘイトをしない人を増やす、ということの難しさを実感しました。

私が自分を表すのにアライを好まない理由は、私の性自認・性的指向にも関わってきます。

私は AFAB (Assigned female at birth) のノンバイナリーです。このアイデンティティがアライというアイデンティティよりも先行します。マイノリティ当事者ということが私を運動へと突き動かします。それは生存とも不可分です。生存戦略という言い過ぎかもしれませんが。

そして、私は、自己紹介でも書きましたがアロマンティック・アセクシュアルを自認しています。アロマンティックとは、他者に恋愛的に惹かれない恋愛指向のこと、アセクシュアルとは、他者に性的に惹かれない性的指向のことです。LGBTQIA と様々な SOGI の頭文字を取った言葉があるとき、しばしば「A」の部分には「アライ」が当てられます。でもアライって SOGI なんでしょうか、そこって本来アロマンティック・アセクシュアルが入る場所ではなかったんでしょうか。A にアライを当てはめることは、アロマンティック・アセクシュアルの透明化のように思えて仕方ないのです。アロマンティック・アセクシュアルは、「勘違い」「まだ恋愛/性愛の良さに気づいていないだけ」のように言われがちで、近年までかな

か理解されなかった指向です。ロマンティック・ラブイデオロギー（恋愛的に惹かれ合っている者同士で結婚するべきという規範）、強制的性愛（正常な人間ならば他者へ性的に惹かれるのが当然だという社会規範）のような規範も相まって、堂々と名乗り出たりコミュニティを作ることが難しい時代が続いてきました。ただでさえ社会に透明化されてきたセクシュアリティを、可視化や権利獲得のために作られた LGBTQIA という言葉にまで透明化されてたまるか、という気持ちがあります。

アライの中にはマジョリティだけではなく性的マイノリティも存在すると思います。ですが、特にマジョリティの皆さんに同じ頭文字のマイノリティ属性を持つ者から言いたいことは、いつもよき隣人として居てくれてありがとう、でもわたしたちの存在を奪わないで欲しいな、ということですかね。このようなことから、同じ A でもアロマンティック・アセクシュアルなんだぞ、という気持ちの強さがあり「アライ」という言葉をよく思っていないのかもしれないです。

ここまで読むと、「アライとして」居るには何か活動をしていないといけないのかな、と思うかもしれませんが、そんなことを思う必要はありません。わたしのスタンスがアクティビストである、というだけで読者のみなさんに強要するものではありません。アライは名乗らなくても、立派な何かをしなくても、誰でもなれるのです。前段にもこの言葉を出しましたが「よき隣人で居たい」、このような思いを大事にしていれば自然と行動にもその思いが表れてくるのではないのでしょうか。これがステップ 1、具体的な姿勢や行動の意思が言葉にできたり出来る範囲で行動に移せたりするとステップアップです。どんな性のあり方の人も対等な関係で共に安心して生きられる社会にしたい、そんな人が増えたらいいなと思っています。

マイノリティ当事者はどこにでも居ます。アライとは LGBTQIA に対するものだけではありません。わたしは在日外国人・障害のある人・アイヌなどの少数民族・貧困層などなど、全ての人の隣人でありたいと思って活動しています。ここまで私の属性に絡めてセクシュアル・マイノリティに

限って書いてきましたが、同じ発想をマイノリティとされる人たち全てに持つことはできるはずです。というか、誰も小さなマイノリティ性がかかえているものです。どんな人が隣に居たとしても拒絶しない、敵じゃないよと示す、寄り添う、そういった姿勢が取れる人間で居たいと思っているし、そういったアライで溢れた世界になったらいいなと思っています。